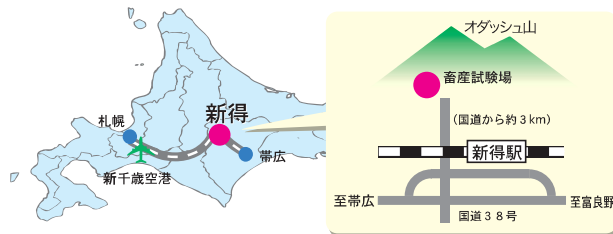


沿革

新得畜産試験場 明治9年 北海道開拓使によって札幌の真駒内に (1876) 放牧場として発足 昭和22年 新得町に移転し北海道立新得種畜場と (1947) 改称 昭和37年 北海道立新得畜産試験場に改組 (1962) 平成12年 新得畜産試験場と滝川畜産試験場を統合し北海道立畜産試験場として発足 (2000) 平成22年 地方独立行政法人北海道立総合研究機構が設立され、農業研究本部畜産試験場となる (2010)	滝川畜産試験場 明治39年 農商務省の月寒種牛牧場滝川用地 (1906) として設置 大正7年 農商務省直轄の滝川種羊場として (1918) 発足 昭和37年 北海道立滝川畜産試験場に改組 (1962)
---	---

来場案内



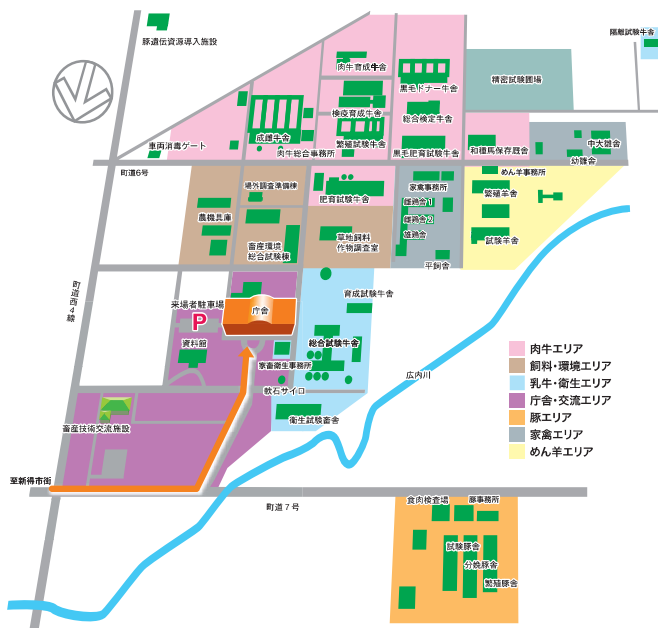
鉄道を利用 (JR石勝線、根室本線)
 札幌駅から新得駅まで、特急で約2時間
 帯広駅から新得駅まで、特急で約30分
 (新得駅からタクシーで10分)

自動車を利用
 札幌市内から、道央自動車道および道東自動車道経由で約3時間
 帯広市内から、国道38号経由で約1時間

概要

組織機構 場長 副場長 総務部 総務課 肉牛研究部 肉牛グループ 畜産研究部 生物学グループ 中小家畜グループ 家畜衛生グループ 飼料生産技術グループ 技術普及室 (道の機関)		(令和8年4月現在) 飼養家畜 乳用種 15頭 肉用種 376頭 豚 138頭 鶏 1,745羽 めん羊 216頭 馬(北海道和種) 11頭
職員(令和8年4月現在) 職員 91人 うち研究職 35人		用地面積 建設敷地 28ha 試験圃場 12ha 放牧地 211ha 採草地 219ha 山地(その他) 1,060ha 計 1,530ha

施設配置図



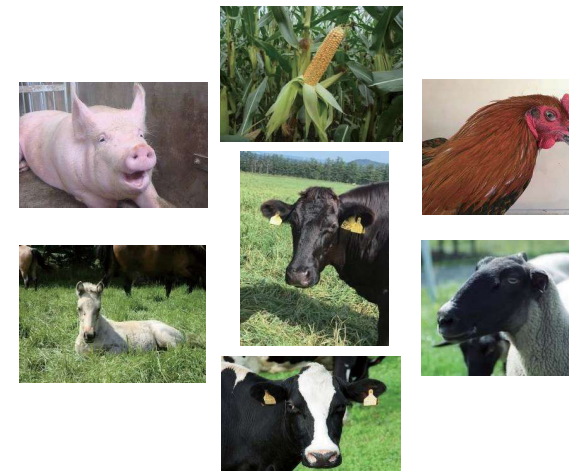
庁舎案内



地方独立行政法人
 北海道立総合研究機構
 農業研究本部



畜産試験場



北海道立総合研究機構農業研究本部畜産試験場
 〒081-0038 北海道上川郡新得町字新得西5線39番地1
 TEL: 肉牛グループ 0156-64-0606
 生物学グループ 0156-64-0618
 中小家畜グループ 0156-64-0611
 家畜衛生グループ 0156-64-0614
 飼料生産技術グループ 0156-64-0620
 技術普及室 0156-64-0623
 総務課 0156-64-0616



URL: <https://www.hro.or.jp/list/agricultural/research/sintoku/index.html>
 E-mail: animal-agri@hro.or.jp

肉牛グループ

黒毛和種の育種改良を効果的に進めるため、フィールド成績による遺伝的能力評価に加え、より早く、正確な評価が可能で、ゲノム情報を用いた選抜法について研究しています。研究結果は道内の優良種雄牛の作出や繁殖雌牛の改良にも活用されています。

黒毛和種の牛肉を効率的に生産する飼養管理技術(哺育・育成・肥育・繁殖)の開発に取り組んでいます。



黒毛和種の供試牛



SNPチップによるDNA型判定



コーンコブミックス(CCM)により肥育した黒毛和種枝肉



黒毛和種の肥育期間短縮を目指した技術開発



超音波による肉質診断

生物学グループ

家畜の生産効率向上および遺伝的改良を目指し、受精卵移植、受精卵の凍結保存、雌雄産み分け、受胎着床および遺伝子診断技術に関する研究を行っています。

近年は特に生体卵子回収一体外受精(OPU-IVF)技術の改良と受精卵ゲノム育種技術の開発、卵巣予備能による牛の繁殖性評価に集中的に取り組んでいます。



性別別およびゲノム育種評価のために一部を切除した受精卵



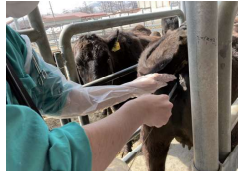
LAMP法による牛胚性別別試薬キット



OPU作業(牛生体からの卵子回収)



受精卵から細胞を採取するマイクロfluidicデバイスの操作



牛の分娩後における卵巣および子宮の回復の検査

中小家畜グループ

【豚】 当場で作成した大ヨークシャー系統豚「ハマナスW2」を道内生産者へ供給するとともに、遺伝資源保護と種畜の安定供給に関する試験研究に取り組んでいます。

【鶏】 「北海道鶏Ⅱ」を改良した「北海道鶏Ⅲ」を平成30年度に開発し、道内生産者へ種鶏と素びなを供給しています。高品質肉鶏として多くの実需者からおいしいと評価され、お膝元の地域ブランド「新得地鶏」をはじめ、道内の普及拡大を図っています。

また、「北海道鶏Ⅲ」の遺伝資源保護と種畜の安定供給に関する試験研究に取り組んでいます。

【めん羊】 生産を阻害する疾病(スクレイピー)に抵抗性を持つ羊群を増殖し、道内生産者へ供給しています。



大ヨークシャー系統豚「ハマナスW2」



F1交雑雌豚(ハマナスW2×ランドレス)と産子



めん羊の放牧



北海道鶏Ⅲ(左:素びな、右:肥育終了時)



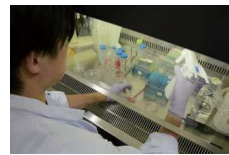
家畜衛生グループ

養鶏場への高病原性鳥インフルエンザウイルスの侵入における野生動物の関与の実態を調査し、野生動物の侵入リスクを評価して、有効な対策の確立に取り組んでいます。

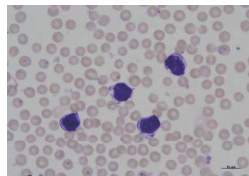
また、家畜の生産性に大きな影響を及ぼす呼吸器感染症の発症機序や予防技術、感染拡大が懸念されている牛伝染性リンパ腫ウイルスの伝播防止技術についての研究開発を行っています。



農場内に侵入したカラス



マイコプラズマ感染試験のための気管支細胞培養



牛伝染性リンパ腫ウイルス感染牛の血液に見られる異形リンパ球



寄生虫による下痢症治療のための糞便検査

飼料生産技術グループ

飼料自給率向上のため、牧草・飼料作物の栽培法および自給飼料の品質評価・向上に関する試験を実施しています。

栽培法に関する試験では、温暖化にともない深刻化する雑草の防除技術や草地の植生維持管理対策、とうもろこしの安定生産技術の開発などに取り組んでいます。また、地域に適応した優良品種の選定や除草剤の効果判定を行っています。

自給飼料の品質評価・向上に関する試験では、近赤外分析による飼料成分の迅速評価技術の高度化やサイレージの発酵品質向上技術の開発に取り組んでいます。



牧草の品種比較試験



とうもろこしの安定生産技術の開発



雑草防除技術の開発



飼料の繊維含有量の分析

技術普及室

技術普及室では、普及指導員が研究職員と連携して、試験場の研究成果に基づく新たな技術の普及および農業技術についてのコンサルティングを行っています。

また、行政・農業改良普及センターや関係機関と連携を図りながら、地域農業が直面する課題に迅速かつ的確に対応します。



牧草地調査



牛の見方実習



普及員研修



採卵実習



農業改良普及センターへの牧草越冬前調査研修